

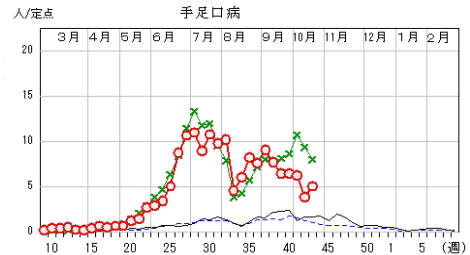
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第43週 2024年10月21日（月）～2024年10月27日（日）2024年10月31日作成

☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

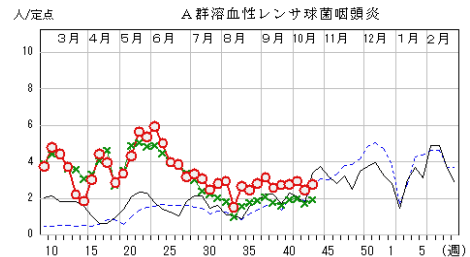
（1）手足口病

第43週の報告数は223人で、前週より54人多く、定点当たりの報告数は5.07であった。
 年齢別では、1歳（59人）、2歳（39人）、3歳（35人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（11.67）、佐世保市保健所（7.33）、県央保健所（5.71）であった。



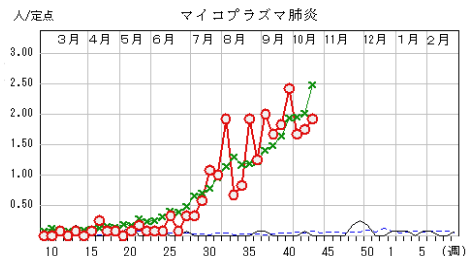
（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第43週の報告数は122人で、前週より14人多く、定点当たりの報告数は2.77であった。
 年齢別では、10～14歳（27人）、5歳（15人）、6歳（15人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.80）、対馬保健所（9.50）であった。



（3）マイコプラズマ肺炎

第43週の報告数は23人で、前週より2人多く、定点当たりの報告数は1.92であった。
 年齢別では、5～9歳（9人）、10～14歳（8人）、0～4歳（3人）の順に多かった。
 保健所別では、長崎市保健所（5.00）、壱岐保健所（3.00）、県央保健所（3.00）、佐世保市保健所（2.00）から報告があった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
 × 当年(全国) 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第43週の報告数は223人で、前週より54人多く、定点当たり報告数は5.07でした。6月中旬より19週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別にみても、10保健所のうち6保健所で警報レベルの報告数が継続しています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第43週の報告数は122人で、前週より14人多く、定点当たりの報告数は2.77でした。地区別に見ると県南地区（12.80）、対馬地区（9.50）は、警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【マイコプラズマ肺炎】

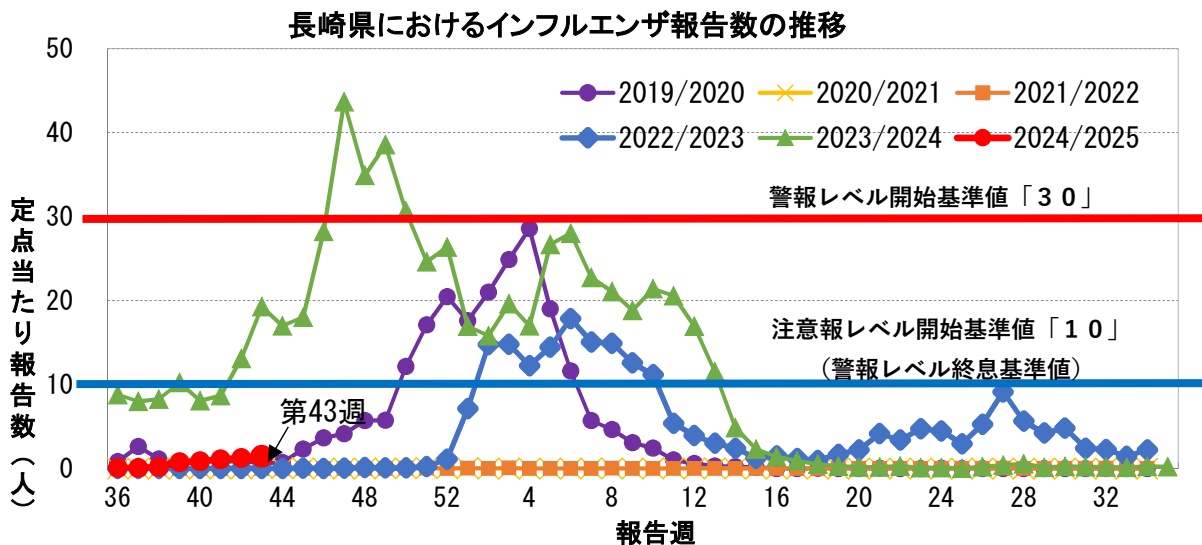
第43週の報告数は23人で、定点当たり報告数は1.92となりました。地区別では、長崎地区（5.00）、県央地区（3.00）、壱岐地区（3.00）、佐世保地区（2.00）から報告がありました。

本疾患は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛沫感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2024年第43週のインフルエンザの定点当たり報告数は1.44で、6週続けて増加しました。地区別にみると、長崎地区（3.18）、西彼地区（2.33）、県南地区（2.00）、五島地区（1.75）は他の地区より多く、「1.00」を超えています。

長崎県では、第41週の定点当たり報告数が「1.10」となり、流行開始の目安となる「1.00」を上回りました。インフルエンザの流行期に入り、今後患者数の増加が懸念されます。手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。



☆トピックス：11月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です

国は、平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。抗菌薬は、医師の指示どおりに適切な量を適切な期間飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。

また、抗菌薬の使用機会を少なくするために、感染症を予防すること、周りに拡げないようにすることも重要です。日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、適切なマスクの使用などで感染予防に努めましょう。

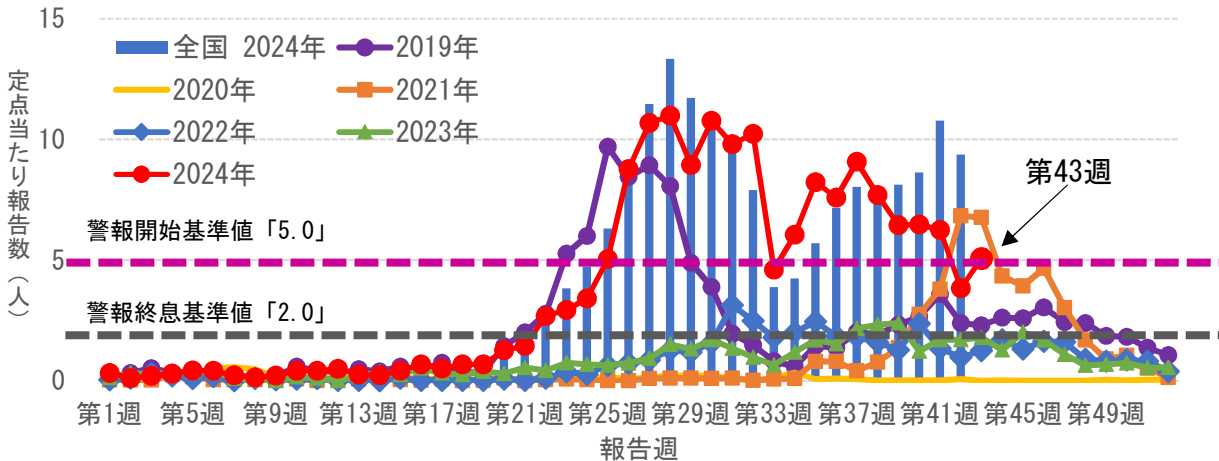
【参考】AMR臨床リファレンスセンター <https://amr.ncgm.go.jp/>

☆トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第43週の定点当たり報告数は「5.07」でした。前週より増加し、警報レベルの報告数が19週間継続しています。地区別でも、10保健所のうち、県南、五島、上五島、対馬を除く6保健所で警報レベルの報告数となっています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



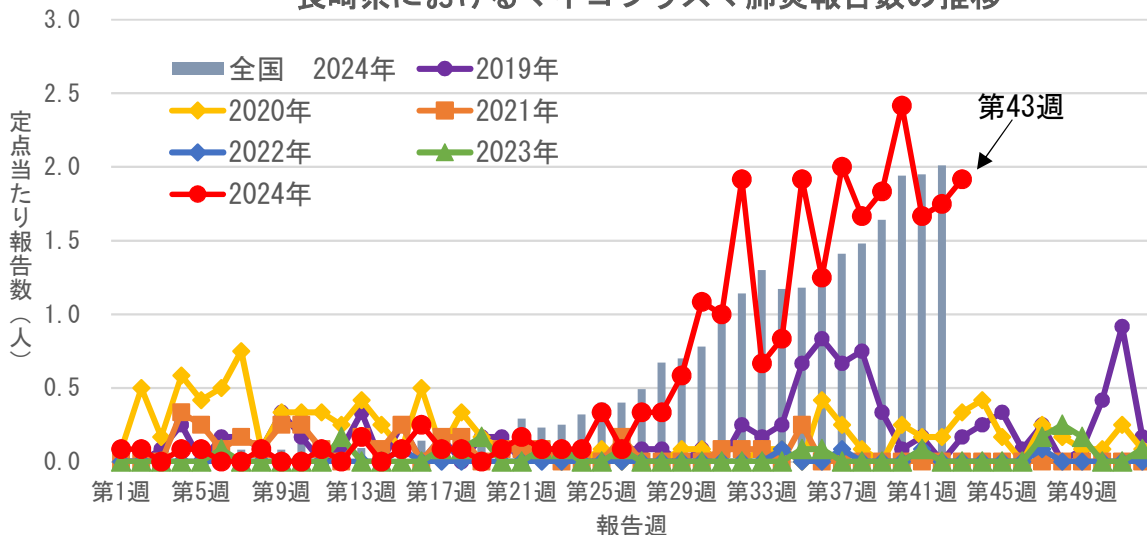
☆トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年第43週の定点当たり報告数は、前週より2人多く、「1.92」でした。2024年は7月中旬から報告数が増加し、第40週には、現行の調査方法となった平成11年以降最多の定点当たり報告数(2.42)となりました。地区別では、長崎地区(5.00)、県央地区(3.00)、壱岐地区(3.00)、佐世保地区(2.00)から報告が上がっています。年代別では、10歳未満が最も多くなっています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

長崎県におけるマイコプラズマ肺炎報告数の推移



◆全数届出の感染症

- 2類感染症：結核 患者 女性（80代以上・1名）
- 3類感染症：報告なし
- 4類感染症：日本紅斑熱 患者 男性（60代・1名）
レジオネラ症 患者 男性（70代・1名） 女性（70代・1名）
- 5類感染症(全数把握対象)：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 女性（50代・1名）
梅毒 無症状病原体保有者 女性（10代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第38~43週、9/16~10/27)

疾患名	定点当たり患者数					
	38週	39週	40週	41週	42週	43週
	9/16~	9/23~	9/30~	10/7~	10/14~	10/21~
インフルエンザ	0.19	0.76	0.86	1.10	1.23	1.44
新型コロナウイルス感染症	2.37	1.74	1.81	1.29	0.87	0.99
RSウイルス感染症	0.23	0.05	0.16	0.16	0.05	0.05
咽頭結膜熱	0.36	0.07	0.18	0.20	0.16	0.09
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.57	2.73	2.77	2.95	2.45	2.77
感染性胃腸炎	1.68	0.84	1.48	1.50	1.23	1.23
水痘	0.02	0.09	0.18	0.09	0.09	0.02
手足口病	7.70	6.45	6.48	6.25	3.84	5.07
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.02	0.05	0.07	0.11	
突発性発しん	0.20	0.30	0.25	0.27	0.30	0.18
ヘルパンギーナ	0.50	0.36	0.45	0.48	0.48	0.59
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.07	0.11	0.02		0.02	0.02
急性出血性結膜炎				0.13		
流行性角結膜炎	0.50	0.38	0.25	0.75	0.38	0.63
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎		0.17	0.08			
マイコプラズマ肺炎	1.67	1.83	2.42	1.67	1.75	1.92
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）				0.25		

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第43週、10/21~10/27) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	1.44	0.18	3.18		2.33	0.64	2.00		1.75		0.33
新型コロナウイルス感染症	0.99	0.36	0.65		1.00	0.36	1.13	1.25			10.00
RSウイルス感染症	0.05	0.17			0.25						
咽頭結膜熱	0.09		0.20			0.14	0.20				
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.77	2.00	0.50	0.50	2.00	1.14	12.80	1.00	0.33	0.50	9.50
感染性胃腸炎	1.23	2.83	0.60		1.50	3.29		0.67			
水痘	0.02		0.10								
手足口病	5.07	7.33	4.60	2.00	5.00	5.71	3.60	11.67	4.67	1.00	
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.18	0.33	0.30			0.14	0.20	0.33			
ヘルパンギーナ	0.59	0.17				0.57		7.00			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02	0.17									
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.63						4.00		1.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	1.92	2.00	5.00	3.00		3.00					
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											